

温篤新聞

通巻162号



『新薬ゾコーバに期待!』

新年明けましておめでとうございませう。まだまだ今年もコロナの世は続いていきそうなスタートですが、ようやく昨年11月に重症化リスクの無い軽症者にも使用できる国産初の新型コロナ治療薬『ゾコーバ』が緊急承認されました。

これでワクチンもあるし治療薬もあるしで、インフルエンザと同等の世の中に戻る事を期待してしまいます。

しかし、色々調べてみると国産初というのが働くのか、そうも安易にはいかなさうです。

ゾコーバは当初デルタ株で特徴的だった12症状では有効性が示せず2回承認を見送られました。しかし、7症状を外し、再度オミクロン株に特徴的な5症状に絞り追加結果を合わせて申請し、3度目の正直でようやく緊急承認された経緯があります。

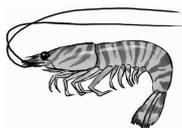
そこで効果のほどを調べてみると、倦怠感・発熱・鼻水・喉の痛み・咳の5症状が、疑似薬の服用では192.2時間だったものが、ゾコーバを服用すると167.9時間と24.3時間も!?短縮されました。つまりゾコーバを5日間服用する事

医食同源 クルマエビ

足腰を温め、だるさを取り除き、滋養強壯の作用に優れ、勢力を増強する働きがあります。

高タンパク、低脂肪で、タウリンが豊富なため、コレステロール値を下げたり、血圧降下の作用があります。

昔から、産後の女性が体力回復のために食べると良いとされてきました。殻には、カルシウムやキチン質が含まれ、キチン質は免疫力を高める効果が期待できます。



今月のツボ 養老(ようろう)

「養」は、養う・育てるを、「老」は、年寄り・衰えるを表しています。したがって養老とは、文字通り老いを養うという意味を表します。

場所は、手の甲の上に、その状態で手首の小指側を見ると、目で見ても分かるように骨が突き出た部分で、8日間辛かったものが7日間に短縮されるわけです。

もちろん、この1日を「たった1日」と思うか「大事な仕事や受験に間に合った」と有意義に思うかは人それぞれかもしれませんが、動物実験で胎児に影響があったため妊婦や妊娠の可能性がある女性や、高齢者が多く服用する降圧剤や高脂血症の薬など36種類と併用できない事が分かっているためハイリスク者が使用ができません。

それでも、それ以外のローリスクな若者でも重症化のリスクが防げるならと思いたいのですが、重症化を防ぐ効果は不明と謳っています。

それでも…それでも…と思いたいのですが、薬価については何故か未公表で、既存のアメリカの薬の金額を考慮すると9万円程度と噂されています。

でも感染症法上で2類相当に属しているから公費で全額負担してくれるか

あります。この部分を触れてみると割れ目がある事がわかり、そこに取ります。

顔や背中にできるできものの特効穴として用いられる他、眼精疲労からくるかすみ目、視力低下、耳の痛み、肩や肘の痛み等にも用いられます。



らと言っても、元は我々の血税やこれからの若者たちへの借金になります。

昨年11月までは、重症化のリスクの無い多くの人が、既存の対症療法薬の解熱剤や咳止め等だけでも数日程度で回復しているというのに、3万円近くを実費で支払うと想定したら果たして国民は服用するのでしょうか。

しかし、このコロナという病は、人によって症状の軽重、症状の持続期間の長短が、それぞれで多様なところが厄介な病気なのかもしれません。

同じ発熱で処方された解熱鎮痛薬でも、コロナ陽性なら無料、陰性なら有料というのも首を傾げてしまうところなので、一律な公費負担で財政を圧迫するより、大切な予算を有意義に使うための、新しい枠組みを作るなどして、良い一年を過ごせる事を願っております。



二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

その抛り所となったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

また二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前が付けられています。

二十四節気

小寒

(1月6日)

「寒の入り」ともいわれ、世の中では「寒中見舞い」が贈り交わされます。言葉の上では、この後に来る「大寒」の方が寒気の強さを表していますが、「小寒の水、大寒に解く」という言い伝えもあり、むしろこの小寒の時期の方が、より寒気が意識されるかもしれません。



私たちは、誰しも幸せな人生を送りたいと願っています。そして、人生を順調に平穏に送っていきけるなら、それに越したことはありません。しかし、それまでどれほど恵まれ、順風満帆であっても、いつ荒波に揉まれるか分からないのが人生というものです。

「神様はその人が乗り越えられる試練しか与えない」といわれます。また「幸福や不幸は心の持ち方によって生じる」ともいわれます。私たちは、逆境の中にあっても、全ての出来事を感じ謝の心で前向きに受け止めていく「心の訓練」を続けていく事が大切ではないでしょうか。そのような心づかいで日々生活していれば、たとえどんな困難に遭遇した場合でも、必ず道は開かれていくものです。

「一日一話」より

七十二候 (1月6日～10日頃)

芹乃栄(せりすなわちさかう)

春の七草の一つとして知られる芹は、冷たい沢の水辺で育ちます。『日本書紀』に「せり」の名が見られるほど、古くから私たちに馴染みのある食材です。

『万葉集』に「あかねさす昼は田賜びてぬばたまの夜の暇に摘める芹これ」という歌があります。これは芹を摘んで意中の女性に贈った男性の歌で、「昼間は仕事で忙しく、ようやく夜になってからわずかな暇を見つけて摘んできたのがこの芹ですよ」という心。

昔も今も、季節の風物を人に贈り、共に楽しむのは、変わらぬ日本人の美意識なのではないでしょうか。



旬のさかな

筈子(かざり)

大きな目玉に鋭い棘の付いた背ビレという不恰好な姿ですが、白くしまった肉はあっさりとした味わいです。

骨離れが良く、新鮮なものは刺身にも向きます。焼き物、煮付け、唐揚げと様々な調理法に合い、特に味噌汁やちり鍋は良い出汁が出ます。

海岸近くの浅瀬で獲れるものは濁つたように黒く、沖合の深所に棲むものは赤みが強くなります。

見た目と味は反比例で、黒ずんだものの方が、味が良いとされます。



1月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	4	5	6	7
⑧	⑨	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21
⑳	23	24	25	26	27	28
㉑	30	31				

誠に勝手ながら、12月31日～1月3日はお休みさせていただきます。

執筆余話

昨年中は、コロナ禍だけでなく、円安や燃料費の高騰による物価高により家計の負担も大きくなる中、ご自身の健康への意識を置いて頂きありがとうございました。少しでも皆様の健康の一助となつていれば幸いです。

円安や物価高による家計の圧迫自体は嬉しい事ではないですが、個人的には、デフレマインドが染み付いた企業が、これをきっかけに値上げをし、それが社員や従業員の給料に還元され、皆様の所得につながるのであれば、暫く耐え忍ぶ時期なのかとポジティブに捉えています。しかし、これが内部留保に変わり、生活を圧迫する最悪の形で終わらないよう政府にはしっかりと政策を打っていただきたいと願っております。当院は値上げせず頑張りますので、本年も宜しくお願ひ申し上げます。

